

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第305号
平成24年12月25日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

辰 年 から 巳 年 へ

校長 鈴木 隆志

今年もあと数日です。今年は辰年でした。「辰」の字は、陽気が動き草木が伸長する状態を表していると言われます。「辰」という字も、「震」「晨」「農」「娠」「辱」「唇」「賑」「振」などと、様々に変化を見せます。昨年3月11日の東日本大「震」災の記憶はぬぐい去ることはできませんが、被災地の「晨（あした）」は、豊穡な大地に戻り（「農」）、新たな生命を育み（「娠」）、その生命に感謝の念を抱き（「辱」）、みんなの笑顔が広がる（「唇」）ように、「賑（にぎわい）」と「振（勢いが盛んになる）」となることを願って止みません。

宮城県気仙沼市出身のシンガーソングライターである熊谷育美さんは、自らが住む気仙沼市で地元テレビ番組の収録直後に被災しました。熊谷育美さんが震災後に発表した作品に『雲の遙か』という歌があります。その歌詞には、「もしも弱音を吐いたなら／昔のように叱ってほしい／負けるなど／負けるなど／強く抱きしめて受け止めて」、「もしも弱音を聴いたなら／昔のように笑ってほしい／何も言わず／何も言わず／優しい顔で味方して」、「今僕は夢に迷って／二手に分かれる道の前で／拳をぎゅっと握りしめるけど／逃げたいです／挫けそうです」とあります。家族や友人、故郷や家、夢や希望を失った被災地の方々に、二度目の冬が訪れました。どうぞ、暖かくしててください。

保護者の皆様には、本校の教育に関するアンケートに御協力いただき、ありがとうございました。「帰宅後、学校の様子（友達、勉強、先生の話）をするようになった。1学期よりやる気が向上している。／毎日学校が楽しいと言っている。先生の行き届いた指導に感謝している。／朝遊びの時間は、体や脳の目覚めにも効きそうで、とてもよいことだと思う。／先生がいつもにこにこしてくださり、朗らかな方なので、子供により影響を与えてくださっていると感謝している。／先生が時間を作ってくださり、帰る前に子供の苦手な勉強を教えてくれる。遅くなる旨も、ちゃんと連絡をもらっているという話を他校の友人にしたところ、とてもケアがきちんとしている、うらやましいと言われた。／学校でのエピソードなどを聞いていると、先生がクラスの子供たちに愛情をもって接してくださっているのが分かり、とても嬉しく思っている。／子供同士のトラブルを先生主導で解決するのではなく、子供自身に考えさせ、子供たちの中で解決させるように導いてくださっているように感じる。いつも温かく見守ってくださり、ありがたい。／1年生の頃は単学級なので心配していたが、今は、むしろ単学級でよかったと思っている。先生方の細やかな気配りのおかげだと思っている。八小に入学できてとてもよかった。／元気な下級生や優しい同級生に恵まれ、転入してきて本当によかったと思う。」などと、嬉しい御意見もたくさんいただきました。アンケートの集計、課題や改善点等については、改めて特集号でお知らせいたします。

新年の干支は「癸巳（みずのとみ・きし）」、み（へび）年です。「癸」の字は、「揆」（はかる）の意味で、植物の内部にできた種子が大きさを測れるまで大きくなった状態を表しているそうです。「巳」の字は、「止む」の意味で、草木の成長が極限に達した状態を表しています。「癸巳」が表す意味のように、光っ子たちが健やかに成長し、大きな成果を上げられるようにと、願っています。

そして、光八小でも「絆」を「紡」に高める教育を一層推し進めてまいります。光っ子たち同士の「紡」、子供と教師との「紡」、学校の職員同士の「紡」、近隣幼保小中との「紡」、保護者・地域と学校との「紡」など、一つ一つを大事にして、笑顔かがやく光っ子をみんなで育てていきます。

保護者の皆様、地域の皆様には、今年も大変お世話になりました。これまでのお礼を申し上げるとともに、新年も引き続き御協力・御支援を賜りますことをお願い申し上げます。皆様方にとっても、新しい年が健康で素晴らしい年でありますよう、お祈りしております。